

経営比較分析表（令和5年度決算）

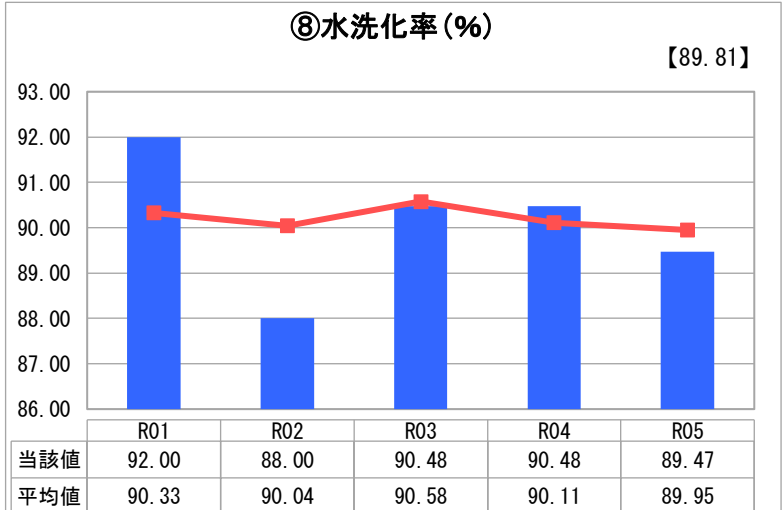
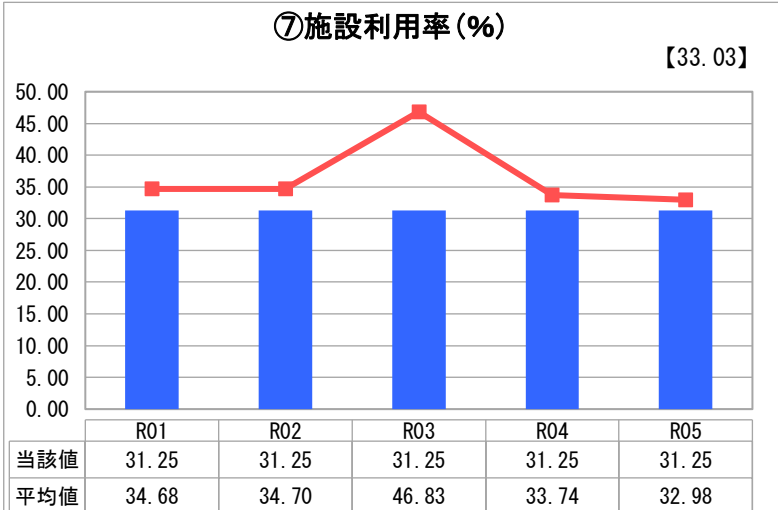
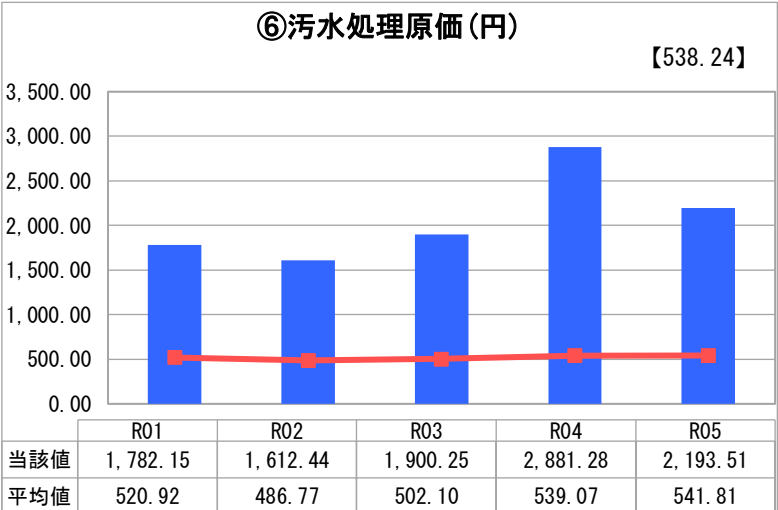
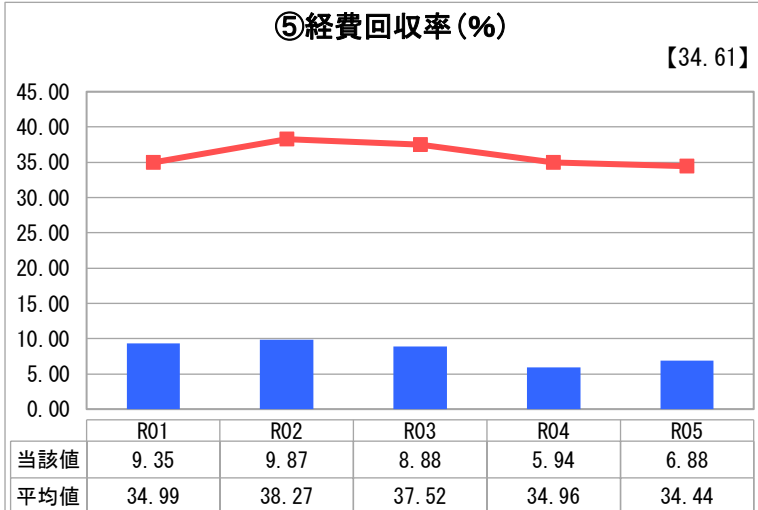
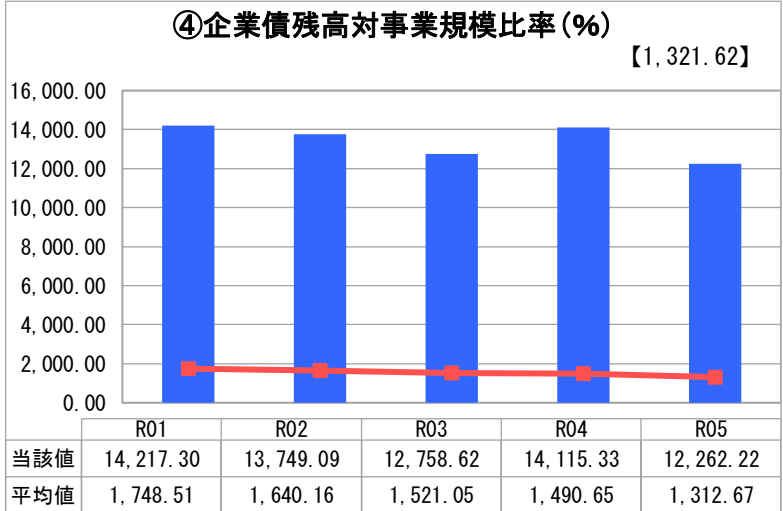
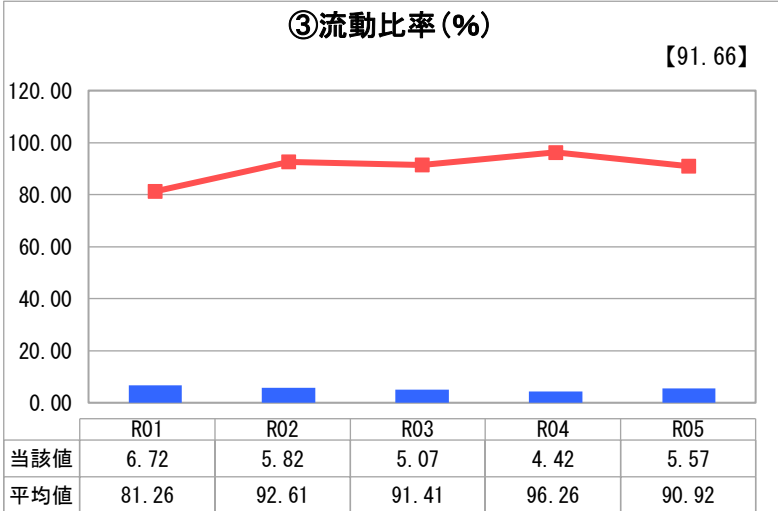
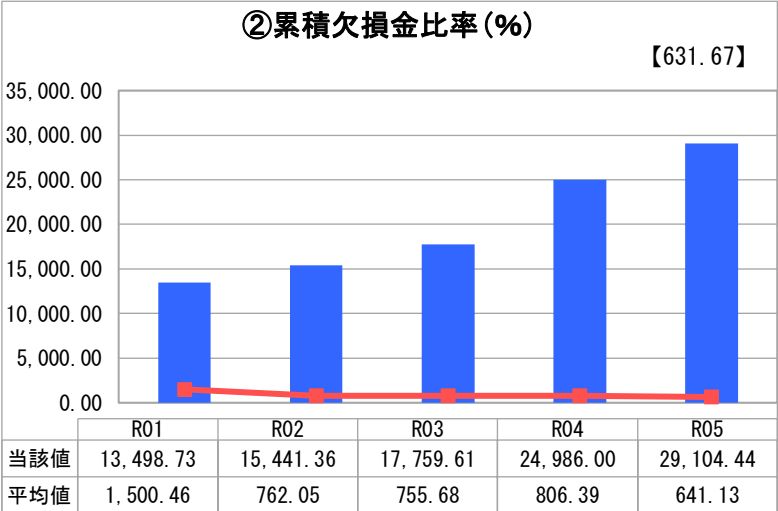
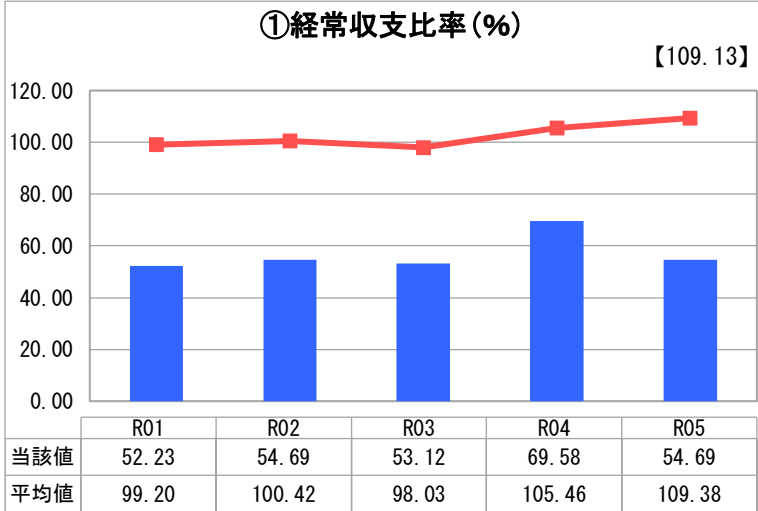
青森県 弘前市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	小規模集合排水処理	12	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	△21.52	0.01	98.13	3,145

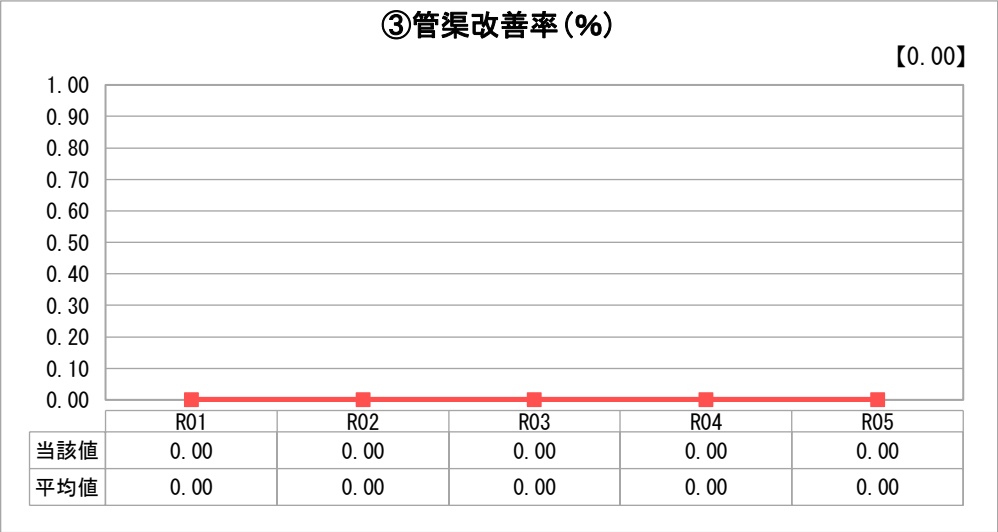
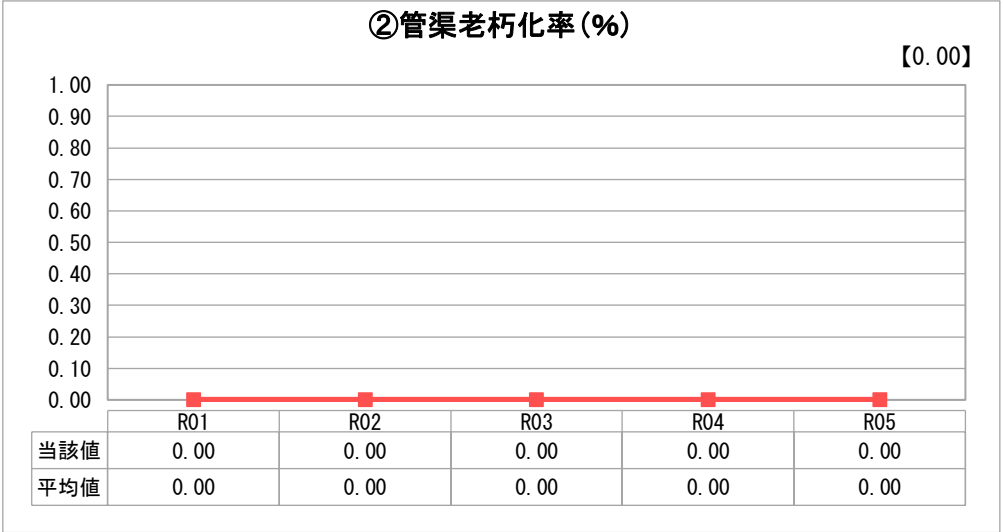
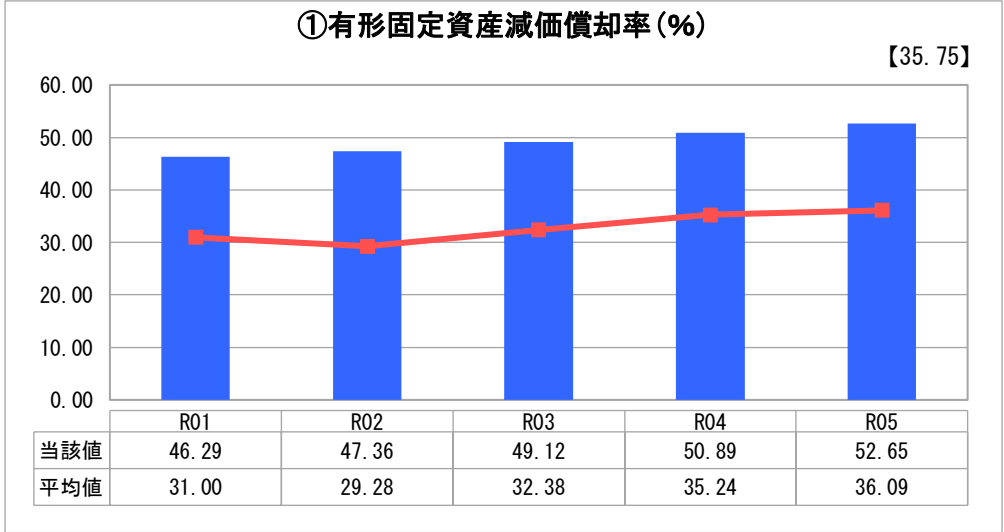
人口（人）	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
161,958	524.20	308.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
19	0.04	475.00

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は、ほぼ横ばいで推移している。
累積欠損金比率は、右肩上がりで推移しており、類似団体と比較して高い。しかしながら、下水道事業全体で見ると平成28年度に累積欠損金が解消されており、収支は安定している。
企業債残高比率については、整備事業自体は終了しているが、事業規模が減少していく見込みであることから、大きな変化はないものと見込まれる。今後も費用の抑制を図り、将来の更新費用のための財源確保に努める必要がある。
また、当市では、事業ごとの経営状況により使用料をそれぞれ設定するのでは、結果的に実施された事業の不採算部分の責任を地域住民が負わされ、料金格差が生じることで住居地域による不公平感が生じることを避けるため、統一の料金設定を採用している。そのため、事業ごとの分析では経営状況はあまり好ましくないが、下水道事業全体で考えると、おおむね健全な経営状況にある。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況については、類似団体と比較すると、有形固定資産減価償却率はやや高く、管渠老朽化率については、対象となる管渠が発生していないことから、現状では施設等の改築・更新は不要である。
しかし、今後、施設等の老朽化が進み、改築・更新が必要となった際には、費用が急激に増加しないように計画的に更新していくことに留意しなければならない。

全体総括

今後は、人口減少に伴い使用料収入も減少していくことから、公共下水道事業の負担とならないよう施設の適正な維持管理を継続することが必要である。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。